

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200841		
法人名	株式会社スタッフ・アクタガワ		
事業所名	スタッフ・アクタガワ ケアセンター有東坂 グループホーム		
所在地	静岡県静岡市清水区有東坂一丁目224-45		
自己評価作成日	平成24年10月18日	評価結果市町村受理日	平成25年3月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhvu_detail_2012_022_kami=true&jiyosvoCd=2294200841-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階
訪問調査日	平成24年10月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ケアセンター有東坂は1階が小規模多機能型居宅介護と、2階がグループホーム1ユニットの併設施設です。1階の小規模では三保の海に行ったりドライブに出掛け、又、近くの公園に散歩に行き機能訓練を兼ねながら気分転換が図れています。事業所内に畑もあり、お客様と一緒に野菜を育て収穫作業を行ったりと様々な活動を通じて楽しんでいただけています。2階のグループホームは家庭的な雰囲気の中で掃除や洗濯等を一緒に、和やかでゆったりとした流れの中で過ごしていただけています。外食やドライブに出掛けたりと外部との関わりも大切に、1階に来られたお客様と一緒にレクリエーションに取り組んだりもしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

若く真摯な管理者とリーダーが力を併せ尽力していて、フレッシュな雰囲気が溢れている事業所です。法人の方針として、月例の地域清掃と年1回の事業所まつりを実施し「地域貢献・地域交流、に取り組んでいます。併せて事業所としては「①(お客様として敬いつつも)家族のように接すること」「②残存機能を維持し、できることを続けてもらう」ことを軸としています。階下の小規模多機能事業所で歩行訓練、身体機能の維持を目指したレクリエーションを定期的におこなっていて、グループホームの利用者も参加しています。ほかにも運営推進会議メンバーで事業所のことを熟知している民生委員が毎月「遊びリレーション」を実施しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼時に理念を掲示したうえで唱和しスタッフ全員に周知させ、会議やケース検討を通じてチーム間で確認をしています。	職員間で考えた「笑顔でサポート」という理念には愛着があり、体現できていること管理者は感じています。はつらつとした声と笑顔で挨拶する職員を何人も視認しました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りや催し物に足を運び楽しんでいただいています。また、様々な行事予定について運営推進会議にて教えていただき参加していく予定です。	事業所のまつりは回覧板だけでなくポスティングもし、周知に努めています。慣れない職員たちを見かねた近所の皆さんが、どぶ掃除の指南も含め手伝ってくれたという嬉しいエピソードもあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月14日を地域貢献活動の「アクタガワの日」として、近隣を清掃しています。また、近くの中学生の職場体験場としての受入れも行っていきます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の第3土曜日に定期開催しています。そこで色々な意見・アドバイスをいただき、それを活用できるように取り組んでいます。	偶数月の第三土曜日と決めていて、2ヶ月に1度の開催を確実にさせています。自治会長や民生委員、地域包括など外部関係者に家族も交えて開催しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括の方に運営推進会議に参加していただきその場を通じて事業所の取り組みについて伝えさせていただいています。	運営推進会議が土曜日開催のため、市職員の参加は実現していません。書面上の市とのやりとりは法人本部一括ですが、管理者が小規模多機能事業所も兼務しているため、小規模多機能連絡会に参加することで、市職員と意見交換しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないよう職員には周知・徹底させています。居室の施錠に関してはお客様の判断に委ねさせていただいています。	日中玄関施錠はしていませんが、内ドアは時間で閉めることもあります。「外にでたい」希望にすみやかに応ずることができるよう、管理者は職員に周知して、職員も随時の散歩に取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアルを作成し常に注意して取り組んでいます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を通じて成年後見人制度等について学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書等の必要書類を用いてご説明・ご質問の時間を設け御理解・御納得を頂いてから署名・捺印をお願いしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	偶数月の運営推進会議や年2回の家族会・お客様アンケートを通じてご意見をいただき検討に努めています。	毎日いずれかの家族訪問があり、管理者はその機会を通じ日頃の様子を伝え、コミュニケーションをとるよう心掛けています。また、誕生日会や外出行事などの写真を掲載した“有東坂通信”も毎月届けています。	家族に運営推進会議に参加してもらえるよう、名称や構成などを検討することを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	チーム会議時や業務の際に職員の意見・考えを確認したり、個別面談をして話しを聞き反映させています。	管理者やワーカーは職員と個別に話し機会をもつよう努めています。また、長所を伸ばそうという試みとして“サンクスカード”を使い、いいこと探しにも取り組んでいます。毎月本部講師によるスキル研修を実施し、相談事があればその折にできる体制も整えています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度毎に個人目標を設定し、四半期毎に評価面談を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修プログラムに基づき、ステップ研修に取り組んでいます。また、社外研修やマナー研修にも積極的に参加し、培った経験を会議時に参加出来なかった職員に教え情報共有を図れています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加した際や事業所連絡会に参加し交流が図れています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に事前に聞き取り調査・お試し利用をしていただき、お客様に満足していただけるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前に御家族の方と話しをし、悩み・要望について伺い、また、お客様の事業所での様子等についての情報共有を図っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所にて提供出来るサービス内容をしっかりと説明し、また、お客様・御家族の使いたいサービスをしっかりと把握して情報を提供していきます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様に出来るお手伝いをさせていただけるように促し、お客様同士と一緒に楽しめるようなレクリエーションを考え提供していきます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お客様の生活暦や日中の様子を話し合い、こちらでの様子を伝えるだけでなく、写真を渡して家族とお客様が写真を見て話しが出来るように図っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	主に御家族様と連絡を取り合い、一緒に外出したりする機会を設けるようにしています。	ちぎり絵など在宅の頃からの趣味を継続している利用者もいます。音楽好きな人にはCDを選び一緒に出かけしています。訪問美容や階下でのレクリエーションが定期的におこなわれ、ここでなじみとなった人たちとの関係継続も図られています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアにてお客様同士が話しを出来るような環境作りをし、一緒にレクリエーションを行うことで支援が図れています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	培った関係性を無駄にせず、何か相談事等がある場合には親身になって対応させていただいています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お客様一人一人とコミュニケーションをとることを大切にし、話を傾聴し支援に努めています。	入浴の湯船の中などリラックスしたときに思いもかけない言葉がでることがあり、支援経過記録に発語のまま書き留めています。職員で共有するほか、面会の際に家族にも伝え、相互理解の手立てともしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族様からの聞き取りや個々の生活暦情報からサービスに繋げていけるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別対応表や介護経過記録用紙・申し送りノートを活用し現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月チーム会議を行い、カンファレンスの中で意見やアイデアを出し合い、介護計画に反映できるようにしています。	すべての職員がプラン全体を把握しているとは言い難い一方で、職員は短期目標などが記された「実施表」でプランを毎日振り返っていて、実現を万全なものとしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を用い、職員間で話し合い・情報共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助・訪問理美容の手配・イベントの参加取り組みをしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出時に地域の方々に挨拶をしたり、地域行事の参加を通じ支援が行えています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医と連携を密に図れています。また、御家族様の意向に合わせて通院介助も行っています。	専門医は家族にお願いしていますが、事業所の協力医については職員がおこなっています。協力医が24時間体制で往診してくれるため、主治医を協力医に変更する利用者が半数を超えています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医との連携を密にし、指示を仰いでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関の相談員の方と情報交換を行い、その後の対応方法については主治医に相談して決めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族様と終末期のあり方について事前に話し合い主治医・事業所・家族間で連携を図り支援に取り組んでいます。	本年度は事業所として初めて看取りを経験しています。急変時の対応はいくつか用意していて、医師の判断を仰ぎつつ家族と合意のうえ通報や搬送の基準を利用者ごとに決めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	異常時・緊急時対応マニュアルを有し、チーム内研修を通じて対応確認をしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を定期的に行い、また、災害時には地域の方々に協力していただけるようお願いをしています。	消火器の使い方と避難誘導については全員ができるようになって欲しいと考えていて、訓練を重ねています。また、緊急時の対応もマニュアルだけでなく、管理者から常々口伝しています。次回の有東坂の防災訓練に参加する予定です。	地域の防災訓練への参加を果たし、連携の礎とされるよう期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	チーム内研修時に接遇の実施や外部講師によるマナー研修に参加しています。	法人の方針でマナー研修を2ヶ月に1度開催していて、学習に余念がありません。ただし、職員の性向や立場もまちまちで、標準化という点では課題が残ります。繰り返しの訓練がこれからも続くなか、さらなる向上が期待されます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日中の勤務を厚くし、お散歩や買い物のご希望に添えるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご希望に添えるよう、外出・気分転換が出来るように勤務配置を心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	私物の衣類を使用していただき、また、着る物に関してはご本人に選んでいただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お客様と一緒に料理をしたり、食事を取り、片付けをおこなっています。	業者から献立、作り方とともに食材が届けられています。食材の皮むきや片付けなど、できることは利用者にも手伝ってもらい、職員の手により提供されています。月1回は回転寿司などの外食にも出掛けています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの身体状況に合わせ、食事量や塩分制限を行ったりと支援が図れています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを行い、清潔を保っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時にトイレ誘導を行い、出来る限りトイレ内にて排泄が行えるように努めています。	“できるだけトイレで、”(失禁などを減らし)なるべく清潔に、を方針として取り組んでいます。排泄チェック表を使った把握により、失禁が減ったという例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や適度な運動にて対応しております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	声かけ・ご本人の希望に合わせて対応させていただきます。	日曜日以外は湯をはっていて、時間に制約がなく入浴できます。のんびり、ゆっくりと入浴できることが特徴ですが、体調を考え長湯にならないよう配慮しています。入浴チェアも使っていますが、身体的に難しくなった場合は階下のリフト浴が使えます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お客様の生活暦に合わせて対応するように心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表や内服薬の説明書を用いて服薬時の薬の理解・支援を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの施設内での役割が出来ており、また、その行いに対しやりがいをもって取り組んでいただけています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御家族様との連携を図り、外出できる機会を増やし、その方の希望に添えるよう支援が行えています。	天気がよければ近所の公園まで散歩に出掛け、時にはゴミ拾いをするもあります。春には花見、夏には海、秋には紅葉と四季の自然の変化を楽しめるよう考えた外出支援に取り組んでいて、今後は月毎の外出支援が確立するよう積み重ねていきたいと考えています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはセンターにて管理をさせていただいております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族様に了解が得られた際には対応させていただいております。また、お客様から御家族と連絡がとりたいと要望があった時には職員が取り次ぎ対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混雑をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お客様にとって馴染みやすく、親しみやすい居住空間作りを心がけています。	日当たりも良く、床下暖房が設置され冬でも快適に過ごせます。2階廊下の両側の窓は開放される構造になっているので煙の侵入を防ぐことができ、安全への配慮もみられます。 "ホテル並みのサービスを、との法人の考えから、玄関には季節の生花が活けられていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士で会話ができるように職員が気を配り対応させていただいております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には本人の使い慣れた馴染みのある物を配置し落ち着いて暮らせるように心がけています。	テレビ、ラック、座椅子、音響機器を配し、一般家庭の居間かと思まごう部屋もありますが、大半はクローゼットに収納してすっきりとした空間です。週1回は掃除をするようにして、清潔に保たれています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂場等の場所には色のついた印を付けてわかりやすくするようにし対応しています。		